

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス久留米教室		
○保護者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2026年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・柳沢運動プログラムを用いた運動あそびと静かな活動。	・マンネリ化の無いように職員全員で話し合って決め、児童が楽しく参加出来るプログラムを立案している。 ・保護者様の要望を取り入れながら、児童のレベルや発育にあった運動を提供している。	・研修動画の視聴や運動研修に積極的に参加し、安全に運動ができるよう職員のスキルアップを図ります。
2	・学校休業日にはイベントの実施。 ※外出、外食、調理、工作など。	・児童の意見を取り入れながら、楽しめるイベントを計画しています。運動会や修学旅行など、合同イベントを通して他教室の児童との交流も図っています。	・今後も児童が楽しめるイベントを実施すること、他教室との交流の機会を増やし、集団で行動することで社会性を養っていく。
3	・不登校児の受け入れを行っている。	・午前中より不登校児の受け入れを行い、児童が他者との交流を持つ為の場を作っています。各関連機関との情報共有を行い、学校にまた通う事ができるようにサポートをしています。	・少しずつ職員だけでなく、児童同士での関わりを持つことができるように場の提供を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・利用している児童の年齢層が幅広いが、同じ療育の内容と なってしまっている為、上の学年の児童のレベルにあった運動やイベント内容になっているのか、計画の見直しを必要とする。	・入室のタイミングや療育時間の都合上、あらゆる児童に合わせたプログラムの立案が難しく、個別に行う配慮にかけていると感じる。	・児童の発達に合わせた個別のプログラムの立案。 ・同じプログラム内容のなかでも、補助を減らしたりなど他児童がやっているプログラムとの差別化を図る。
2	・下校時間や送迎時間の関係で、十分な療育時間を作ることが出来ない場合がある。	・利用児童の年齢層が上がるごとに下校時間が遅くなってしま いう。宿題の量やレベルも上がることで、運動をする時間の確保や集団での活動ができない場合がある。	・保護者様に相談し、自宅の到着時間を遅らせるなど、対応を考えていく必要がある。
3	・集団での活動が多く、騒がしいと感じてしまう場合もある。	・低学年の児童が多い。楽しく活動に参加することができているが、声の大きさやメリハリがついていない児童も多い。	・毎年4月には教室でのルールなどを見直す時間を作り、児童だけでなく職員も再確認を行うことで定着させる。